

生物・生態サイトカード

通しNo.		A-5		更新日	2025/3/19
サイト名		ふみしま 経島とウミネコ			
基本情報	区分	☒ 動物 ☐ 植物			
	生息地	島根県出雲市大社町日御碕(経島)			
	分類	経島ウミネコ繁殖地:国指定天然記念物			
	管理団体／ 保護団体／ モニタリング	出雲市等			
	留意点				
サイトの解説	生物・生態	経島は、島根半島の西端日御碕の海岸から北方約100mの海上にあり、流紋岩質溶岩からなる大小2つの島からなる。面積は約100㎡、高さ20mで、柱状節理が発達しており、それが経巻を積み重ねたように見えることから経島(ふみしま)の名がある。 この島はウミネコの集団繁殖地としてよく知られており、1922(大正11)年に「経島ウミネコ繁殖地」として、西日本で唯一国の天然記念物に指定されている。ウミネコは、日本で最もよく見られるカモメのなかまで、体長約47cm、翼を広げると120cmにもなる。頭部から腹部にかけて白色で背面と翼上面は灰色、黄色いくちばしに赤と黒色の模様がよく目立つ。尾は白色で、先端部にある幅の広い黒帯が特徴である。「ミャア、ミャア」と鳴き、その鳴き声がネコに似ていることからウミネコ(海猫)の名が付けられている。 経島には3,000～5,000羽が渡来し集団で繁殖しており、渡来期には周辺一帯にウミネコの鳴き声が響きわたる。ウミネコは例年11～12月に経島近海に飛来し、2～3月经島に集結し子育ての準備を行う。4月中旬から産卵がはじまり、5月中・下旬がふ化の最盛期となる。このころ出雲地方の水田でよくウミネコの姿がみられるようになる。これは、田植え前の水田に舞い降りて水生昆虫やミミズ、カエル類などを捕食してヒナに与えるための珍しい行動で、車窓からその姿が見られるかもしれない。 子育てを終えたウミネコたちは、7月下旬頃北の海へと飛び立つ。海上では、よく大型魚に追われ海面近くに浮上してきた小魚を集団で捕獲する。漁民はこの様子を「とりやま(鳥山)」と呼び、以前はそれを頼りに漁をしてきた。			
	地形・地質、 歴史・文化等	日御碕灯台の建つ海成段丘面(標高25m)の東側にも岩棚が標高10～15mに形成されている。経島の平坦な面もこの岩棚に相当する。しかし、この岩棚が段丘面であるかどうか、円礫層が発見されていないため明確ではない。			
写真・図等		 経島  ウミネコ  水田に飛来したウミネコ			
参考文献		中井春治(1978)日本生物教育界第33回全国大会記念誌 島根の生物. 62-63. 日本生物教育会松江大会実行委員会			